

比較家族史学会

会報 比較家族史 15

事務局 〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学社会科学研究所 利谷研究室

第一八回研究大会プログラム

日時 一九九〇年十一月二四日(土)・二五日(日)
場所 摂南大学法学部 一―号館

大阪府寝屋川市池田中町一七―八

(TEL. 〇七二〇―二六一五―〇一二代)

第一日(二四日) 午前一〇時開会

◇会長挨拶

大竹 秀男

◇自由報告

・芸娼妓契約の法的効力

山中 至

10:15~11:15

司会 井ヶ田良治

・出産力調査からみた「子ども」

中野 英子

11:15~12:15

司会 清水 浩昭

◇昼食(幹事会)

・図説ファミリー・サイクルモデルの作成―二つのモデル家族の場合―

久武 綾子

13:15~14:15

司会 清水 浩昭

◇休憩

◇テーマ報告

・法的側面から見た江戸時代の嫁と舅

林 由紀子

14:30~15:30

司会 高木 侃

・江戸時代以降の女性の地位

中埜 喜雄

15:30~16:30

司会 高木 侃

・江戸時代以降の女性の地位

高木 侃

15:30~16:30

司会 高木 侃

◇懇親会 午後五時~七時

摂南大学法学部一―号館一―階

会費 四〇〇〇円程度

第二日(二五日) 午前一〇時一五分開始

◇テーマ報告

・一九世紀フランスの婚資をめぐる

中野 隆生

10:15~11:15

司会 有地 亨

・メイがヨメにくると―アラブ社会の

大塚 和夫

父方平行イトコ婚をめぐる―

清水 昭俊

11:15~12:15

司会 清水 昭俊

◇昼食

12:15~13:00

司会 清水 昭俊

◇総会

13:00~13:40

司会 清水 昭俊

◇シンポジウム

13:40~15:10

司会 清水 昭俊

◇休憩

◇シンポジウム

15:30~17:00

司会 清水 昭俊

◇シンポジウムのテーマ

「女性をめぐる縁組―alliance―」

司会 清水 昭俊

(嫁と姑)

※シンポジウム司会

高木侃・奥山恭子・田中真砂子

(運営委員)

堀陽子(委員長)・井ヶ田良治・栗原弘

堀浩

研究大会に関連する連絡事項

1 摂南大学への交通機関(別紙参照)

京阪電車寝屋川市駅下車
(大阪方面からは)降りたホームを出ると、すぐ前にバス乗り場があります。向かって左手一番前(西一番乗り場・太閤公園行き)が、摂南大学へのバスとなります。
(京都方面からは)ホームの階段を降りて、改札を出、右手地下のガードをくぐると前記バス乗り場になります。

①駅前にタクシー乗り場もありますが、タクシーがなかなか来ないことも多いので、御承知おきください。(大学まで七五〇円程)

②バスは二〇分ないし二五分で摂南大学前(正門脇)にとまります。

当口、学内に案内板が出ていますので、それに従って会場(11号館)までお越しください。

2 弁当の予約について
大学周辺には食堂は多くありませんので、できるだけ弁当を予約いただけたらと存じます。代金は千円ほどです。必要な方は同封した出欠の葉書の「弁当」欄に〇印をお付けください。

3 研究大会についてのお問い合わせ先
堀 陽子(運営委員会)

自宅

研究室 〇七二-〇一二六-五二〇一内五三〇

4 出欠の御連絡は、同封の葉書にて十一月一日(必着)までにお願ひ申し上げます。

事務局からのお知らせ

1 会費の納入について

一九九〇年度分までの会費が未納となっている方には、未納分の内訳を記したものと振込用紙を同封いたしました。よろしくお願ひ申し上げます。

2 『比較家族史研究』について

①『比較家族史研究』第五号は、来年一月刊行の予定です。会員への発送も一月以降となりますので、ご了承ください。

②『比較家族史研究』の刊行条件、会員への配布・頒布条件については、さまざまな事情から今後次のようになりますので、お知らせいたします。

・七〇〇部印刷中、二五〇部は弘文堂に委託販売する。四五〇部は学会事務局引渡し。

・抜刷はつくらない。そのかわり論文執筆者には二冊、小稿執筆者には一冊を贈呈する。

・第五号より定価を一八〇〇円(プラス消費税)とする。(従来一五四五円)

・学会の会員は、従来どおり一冊は無料(送料とも)とし、事務局より送付する。

・会員への送付は、その年度の会費を支払った者に行う。

・会員が前記一冊以上必要とするとき、学会事務局扱いの場合一冊一三〇〇円で頒布する(送料は各自負担)。会員が弘文堂に注文する場合は、一般同様定価販売(送料は各自負担)。

③学会事務局の残部は、創刊号―残部なし、

第二号―僅少、第三号―数十冊、第四号―百部弱となっております。弘文堂では、各号二〇〇部ほどの残部があります。必要の方は、できるだけ一般書店・生協を通じてお買い求め下さい。

3 『シリーズ家族史』第五巻「老いの比較家族史」が刊行されました。販売促進について

ご協力をお願いいたします。

十周年記念事業アンケートについて

先頃実施しましたアンケートの結果ができましたので、御報告いたします。

会員の回答数

① 一つだけ実施するとすれば何がよいか、という問いにたいする回答。

1 家族に関する事典の刊行 34

2 『世界の家族』シリーズ 23

3 この十年間の研究動向 11

4 市民向けの公開シンポジウム 3

複数回答(1・2・3、1・2、3・4各1) 3

事典の中に2を加える等の折衷案 (1と2、1と2と3、2と3各1) 3

1~4すべて反対 1

記載なし 1

②おもな意見

(1について)

・ユニークな企画で類書がない。利用価値高。

- ・他分野の学術用語参照に便利、他分野と共通の概念や知識を共有しうる。様々な専門分野の専門家の参加を期待しうる。
- ・実現可能性という点で最適。商業ベースに乗りやすい。
- ・予定期間内に刊行するのが比較的容易。
- ・学会事業にふさわしく、一般の要請にも答えうる。

・総力を結集して、至急編集委員会を設立し、明後年刊行をめざす。

- ・収載項目の選定が困難。内容が濃くならない危険がある。選定項目は幅広く。
- ・家族は世界各地で刻々変化。事典ではその変化(代理母など)をフォローできず。
- ・時間がかかる。社会学辞典の中にも家族に関するものがあり、不要では。

・類する事典の刊行予定がある。『家政学事典』(朝倉書店)家族関係の項目相当数有。

(2) について

- ・外国の家族の事情はわかりにくいので有意義。実現できれば、貴重な事業。
- ・公刊されているものでは知りえない資料を。
- ・文化的、制度的、歴史的比較とともに現代の直面している問題の比較も必要。
- ・外国在住者、経験者の生活記録も含める。客観性のある報告を。
- ・西欧・アジア・日本につき、伝統・近代・現代の時代区分では。アジアでは三時代の研究蓄積のある国は限定されそう。
- ・内容に精粗のかたよりが生ずる恐れ有り。

- ・中国だけを考えてもその多様性をまとめるのは困難。身分的多様性についても同様。本格的なものをめざすとすれば大事業過ぎる。研究不充分。時間がかかる。
- ・個別研究がすでにある。類書にない新しさをどう出すか。
- ・『世界の家族法』シリーズが目下進行中。刊行しても売行きの見通しがたない。

(3) について

- ・現実的で、研究の便ともなる。
- ・専門分野別、地域(各国)別の構成も可能。
- ・この十年とそれ以前を概観したものを。
- ・若い人の仕事に期待。
- ・2と3を合わせて多くの人の参加を。
- ・文献目録で代替しうる。
- ・今の段階でまとめるのは時期尚早。
- ・すでに各分野で多様なものがでている。
- ・対象は研究者に限定される。学生の利用も。

(4) について

- ・他と併行してやればよい。1のPR事業。
- ・市民への情報還元もよい。市井の婦人の参加を。婦人会館などの公共施設、教育委員会の後援で市民公開講座を。
- ・斬新なテーマをたて、研究成果の比較を。
- ・(イ)連続シンポ、(ロ)毎年開催、(ハ)国際シンポを。
- ・不必要。新味なし。
- ・副企画としておもしろいが形として残らず。

幹事会 議事録

日時 一九九〇年六月八日・九日
場所 お茶の水女子大学

(1) 報告事項

- 1 『比較家族史研究』第五号刊行の進捗状況報告(奥山恭子氏)。十二月二十五日刊行の予定。発送は一月上旬。
- 2 『シリーズ家族史』第一期五巻以降刊行の進捗状況。

の進捗状況。

- ・五巻「離婚」原稿二本未入稿。
- ・六巻「女性と財産」六月末締切。
- ・七巻「老人」七月十日刊行予定。

- 3 『シリーズ家族史』第二期刊行について早大出版部との交渉経過。編集費の支払い時期の検討。

4 『シリーズ家族史』第二期(一)三巻刊行の進捗状況報告。論文のコラム、コメントなどは、各巻の編集委員に任せる。

- 5 大会開催校の準備について
- 6 大会開催校の水女子大学・摂南大学

- 7 学術会議の登録について
- 8 事務局長の移動について
- 9 幹事の辞任 瀬野精一郎氏の辞任承認。

(2) 審議事項

- 1 新入会員の承認。
 - 2 前年度会計報告と承認
 - 3 大会参加費について
- 従来五百円(非会員千円)であったが、第

十七回は、千円（非会員千五百円）にした
い。以後は会場校の都合にあわせて大会参
加費を決定する。

4 研究大会のあり方・シンポジウムの方式
の変更について
報告を二回の大会に分け、シンポジウムを
開催する方式は、①司会者の複雑さ、②報
告者全員に二回連続出席してもらうことの
難しさ、③自由報告の時間確保の困難なこ
と、④前回資料や討論内容が二回めにうけ
つがれるのが困難、⑤会場運営委員の労力
が膨大、など多くの問題点が出てきたため、
第十八回大会で終了する。

5 次回シンポジウムの共通課題について
（企画委員会）
検討課題「親と子」・「家族と国家」
次回テーマ「親と子」（親子の識別、親子
とは何か、出自、捨て子など）

6 今後の研究大会の会場校について
7 論文の転載について
学会関係の会報やシリーズに執筆した論文
等を個人の論文集・著作集に転載する場合
は、承認する。

8 十周年記念事業について
広く会員から希望を募り、秋くらいまでに
集計し、幹事会で決定する。

9 研究の国際交流について
中国から婚姻・家族に関する研究の交流を
したい旨の申出があったが、学会として特
別の便宜をはかったり、研究助成などをで

きる状況ではないので、個別的に江守五夫
氏に交渉してもらう。

10 広告について
三省堂・弘文堂のみ無料。家族史関係の文
献であれば広告もよい。ただしあまり無理
をしない。

総会 議事録

日時 一九九〇年六月一〇日
場所 お茶の水女子大学

1 事務局長の引継ぎについて

2 新入会員の紹介

3 前年度会計報告

4 次回シンポジウムのテーマについて
「親と子」

5 十周年記念事業について
アンケートへの協力を要請する。

6 『比較家族史研究』第五号刊行の進捗状
況について

7 『シリーズ家族史』第一期五巻以降刊行
の進捗状況について

8 『シリーズ家族史』第二期一～三巻の刊
行進捗状況について

9 第十八回研究大会について
10 その他
法学関係の幹事が多いので、将来的に他の
分野とのバランスをとるようにしたい旨、
大竹会長より発言あり。

新入会員

福田 巨孝 社会学

井上 治代 女性学
（院生）
東京大学

ライター
鳴崎 尚子 家族社会学・家族史

合研究センター
秀村 選三 日本経済史
早稲田大学人間総

文化研究所
木佐木哲朗 社会人類学
久留米大学比較

清野幾久子 憲法・社会保障法
実践女子大学

岩本 通弥 民俗学
札幌大学

匡立歴史民俗博物

館

中山まき子 児童学

布川 清司

日本民衆倫理想史

名古屋女子商科短大

中村 哲夫

中国近・現代史

神戸大学

お茶の水女子大学(院生)
ウルリッヒ・メーワルト 家族、農村社会学

村上 一博

日本法制史

神戸大学

前川 佳夫

社会学

神戸学院大学

お茶の水女子大学(院生)
ドイツ日本研究所
熱田 公 日本中世史

興会特別研究員

日本学術振

生)

早稲田大学(院

神戸大学
沢田 裕治 英法史・法社会学

竹本 康博

民俗学・社会人類学

相模女子大学

杉田 孝夫

家族思想史・政治思想史

お茶の水

早稲田大学
(院生)
京楽真帆子 日本古代史

堀内 正樹

社会人類学

女子大学

黒田 忠史

法史学・比較法

甲南大

京都大学(院生)
加納 啓良 東南アジア農村経済・経済史

西野 理子

社会学

早稲田大

牟田 和恵

社会学

荻原香代子

家族関係学

佐賀大学

東京
大学東洋文化研究所
國方 敬司 イギリス中・近世経済史

米村 千代

社会学

住所変更(名簿の訂正を含む)

富士吉田市史調査員

山形大学
田中 豊治 経済史

中埜 喜雄

日本法制史

青島 敏

民法・社会学

大東文化大学
芝 紘子 スペイン中・近世社会学

ム女子大学

森下 敏男

ソビエト法

ノートルダ

阿由葉 司

日本中世史

愛知教育大学

国立歴史民俗博物館
荒木 敏夫 日本古代史

光陵女子短期大学

日本大学

鈴木 博人 家族法

所属等変更

専修大学

有地 亨 家族法・法社会学・家族社会学

鈴木ゆり子 日本近世史

犬童 美子 家族史研究会

梅村 恵子 川村学園女子大学

住谷 一彦 帝京大学

松浦 千裕 拓殖大学

聖心女

伊藤 昌司 相続法

竹内 隆夫 社会学

菅野 則子 すがの(読み方の訂正)

九州大学

稲本洋之助 法律学

福田はぎの

立命館大学

大口勇次郎

大平 祐

東京大学社会科学研究所

植野 弘子 社会人類学

牧田 勲

日本法史

訃報

卯之木 盈三 日本古代史 熊本県立高森高校

熊本県

熊谷 開作 日本法制史 龍谷大学法学部

京都府

つつしんで御冥福をお祈り申し上げます。

茨城大学

金城 秀樹 民法・法社会学

摂南大学

宮崎 幹朗

家族法

札幌

大学

川村 康 中国法制史

森本 敦司

西洋法史学・家族法

東京大学東洋文化研究所

早稲田大学(院生)

坂元 光 文化人類学

吉見 周子

日本史

※新入会員の二部と訃報は、前号会報に掲載する予定でしたが事情により本号掲載になりました。あしからずお許しください。